

どんびま

2009年9月12日発行
発行者 椛の湖農業小学校

小さな秋

早朝、涼しいを通り越して上着があってもいいなと思いつつながらトマト畑へ行く靴を履いていると「キチキチキチキチ・・・」と鳴き声を聞いた。顔をあげて見るとモズだ。

他の野鳥の鳴きまねがうまいところが百舌（モズ）と呼ばれている由来だ。肉食の鳥で口ばしは鋭い。昆虫はもとよりカエル、トカゲや小鳥、モグラ、ネズミまで食べるという。

秋から冬にかけて山里にも姿を見せ、捕らえた獲物をすぐ食べないで、木の小枝に刺したり木の股に挟んだりしておく「はやにえ」という習性がある。腹がいっぱいになったのか、場所を忘れてしまったのか、乾涸びた串ざしの虫や木の枝でミイラになったカエルなどをよく目にする。

モズの鳴き声を聞くようになると、この山里も秋。稲刈りが始まり、谷あいには営農組合のコンバインの音が響いてくる。（草）



9月授業日案内

- 日程 9月27日（日）
- 受付 8:30～9:00
- はじめの会 9:00～9:15
- 授業 9:15～12:00

（栗拾い・稲刈り）

栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。

栗は有料です。時価で精算して頂きます。

- 昼食 12:00～13:00
（松茸ご飯、お吸い物ほか）
- 授業 13:00～15:00
（稲扱き（脱穀）・バケツ稲品評会）
- 終りの会 15:00～15:30

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、
着替え 買い物袋 食器、箸

☆バケツ稲を持参してください。

**品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
バケツごと持ってこられない方は、刈って
稲束にしてお持ち下さい。**

- 締め切り 9月24日（厳守）

- 問い合わせ・緊急連絡

Tel.0573-75-4417

090-5110-9362（山内總太郎）

～とくちゃんの農小レポート～

～夏休みの思い出作りできたヨ～～

昨年は土日共に雨に見舞われましたが、今年は二日間とも晴天にめぐまれたキャンプとなり、夏休みの思い出作りにチャンスを与えてくれました。

***午前の授業。** 畑の作業はじゃがいも堀りと、白菜の種まきをしました。又かぼちゃの収穫も行いました。昨年のような動物の被害は無かったけれど、天候に恵まれず収量はイマイチでした。

台所では、昼食用のおにぎりを作ってゆで卵とパック詰め、夕食用の材料の仕込み、トマトジュース作りと大忙し。ハム用に漬け込んだ豚のロース肉も布で包み、ひもできっちりとまきあげました。

***持ち帰り。** じゃがいもとカボチャでしたが、かぼちゃは山内さんから大量に提供があり、各自二個ずつの持ち帰りができました。坊ちゃん南瓜は、横半分に切り種を取り出し、中にとろけるチーズとマヨネーズを入れて、ラップをして電子レンジに掛けると、美味しく食べる事ができますヨ！

***川遊び。** キャンプの中でも楽しみな川遊びは、例年のように川上（カワウエ）川に出掛けました。前夜の雨で川の水はやや太めで、鱒のつかみ取りは前半は低学年だけで後半は高学年も入り挑戦しましたが、放流量の約半分位しか捕れなかったようです。腹（内蔵）出しも行い、低学年生徒も果敢に挑戦しました。

***夜店の準備。** 4時半ころより広場で準備に取り掛かり、各グループが担当した屋台が並びました。豚の丸焼き、鱒の塩焼き、いかの姿焼、トリの唐揚げ、トリの串焼き、焼きそば、フルーツポンチ、サラダ、冷奴、フライドポテト、フランクフルト、焼きおにぎり、冷やしトマトとキュウリなど盛り沢山の品がたっぴりと用意されました。

***アトラクション。** ステージでは、「時間」と云う名のグループによるコンサートが披露され、会場も一体となって盛り上がりました。

***キャンプファイヤー。** 火の長（おさ）菅井先生を先頭に、各グループ長と6年生が松明（たいまつ）を持って入場し、火の神に感謝の気持ちを捧げながら、一斉に点火すると勢いよく燃え上がり歓声があがりました。**グループの出し物**で歌や踊り、肝試しなどを楽しみました。**かぶと虫運動会の表彰**もされました。

***影絵の上演。** 今年の影絵は日本昔話の中から、「かさじぞう」と云う物語でした。貧乏暮らしの爺さんが大みそかに、婆さんの織った織物をもって街に売りに行きますが、誰も買ってくれないので、笠売りの笠と交換しての帰りみち、雪にさらされて並んでいる地蔵さんを見て、寒くて可哀そうと思い笠を、地蔵さんにかぶせて帰りました。すると夜になってお地蔵さん達が宝物を持ってお礼にやってきたと云うお話でした。今でも年老いた人達の中には、年金生活では年越しに苦労していると聞きます。こんな地蔵さんが近くに居てくれるといいね！！！！

***物づくり体験教室。** 一夜明けた日曜日には物づくり教室が開かれ、事前に申し込んだ科目に朝早くから参加しました。

○木工工作。 木切れを利用したアイデア作品が、鋸や金槌を使って次々に出来上りまし

た。また先生が用意した組み立て作品の、おもちゃ箱や菓子作りの型なども人気を呼んでいました。カラスミの型枠は2月の課外授業の中で、実際に菓子作りに挑戦して貰いますのでご期待下さい。

○竹細工。 安保校長提案の「竹の植木鉢」づくりは、お母さん達に大変喜ばれていました。竹トンボは低学年にも人気で、危なっかしい手付きながらも、切出しナイフを使って頑張りました。

エコの時代を反映してか、マイはし、さいばし作り等も行われました。

○草履作り。 今年も外部からベテラン先生をお招きして、布草履作りを習いましたが、中々左右の形が揃わず、苦労している姿が見受けられました。

完成した草履の履き心地は如何でしたでしょうか？

○染物。 今年は一入一枚のTシャツに限られたせいか、乾燥のために吊るされた作品は、夫々のデザインが人目を引き、見る人が感心していました。

この作品がいちばん実用的(?)だったのでしょうか。

○紙すき。 各家族で準備した紙パックのパルプだんご。水と一緒にミキサーにかけ枠に流し込んで……。始めは四苦八苦していたもののだんだん要領を得て、10枚以上も作ったご家族もいました。来年はハガキに色づけや押花の配置も考えてレベルアップした体験をと話していました。

○シルクスクリーン。 我夢土下座メンバーのしんちゃんの伝手で農小の標語「たがやしひとなる」の原版を作ってもらいました。白いTシャツに写し取った鮮やかな色合いは、シンプルながらとても良く目立っていて、これも実用的？……。

***時どきおやつ。** とうもろこし、かき氷などのおやつを頂きながら、午前中大奮闘しましたが、夏休みの工作は完了したでしょうか？

自分で作品を作ると云う事は、とても満足感があります。日頃の生活の中でも創意工夫があれば、より快適な楽しい暮らしが出来ます。少しずつ体験を重ね、大人になっても忘れることなく活かしてください。

***流しそーめん。** お昼は例年大人気の流しソーメンで、当農小の名物となりました。左利きの人はいへん有利？だったとか……。中には汁に浸ける暇もなくソーメンを口に運んでた人もいたとか……。いずれにしてもスタッフが驚くほど、大量の麺が消費されたそうでした。それでも食べられなかった人もあって御免なさい。

***おわりの会。** 楽しみだったキャンプもあっと云う間に終わりましたが、生徒さんやご父兄の皆さんには、夏休みの良い思い出作りが出来ましたでしょうか？何よりも病人とか怪我人とかが無かったので、スタッフ一同胸をなでおろしています。今年もあと三回ですインフルエンザには罹らない様注意して、元気な姿で登校して来てください。

～とくちゃんのちょっと一言～

宮下先生から提供のあったホウズキは如何でしたか？ホウズキを鳴らせる人は少なくなりましたが、昔は女の子の遊びの一つでした。

《お知らせ》 椋の湖農業小学校とフォークジャンボリーのテレビ放送

9月19日(土)朝8時～ BSハイビジョン「ふるさと発」

10月2日(金)夜8時～ NHK3ch「金とく」

11日の北アルプスのヘリ事故のため放映予定が延期されました。予定ですので番組表を確かめてご覧下さい

～あぼ兄の百姓ぼなし～

「楽しさ」はエネルギーの源

名古屋に住む孫たちは 毎年、夏休みに入るとすぐ来るのに、今年は天候不順のせいか、8月も下旬になってやっと来てくれた。野球好きの長男（小3）は 来ると直ぐにキャッチボールの相手をせがむ。野球が人一倍好きなあぼ兄だが、最近は足腰の衰えでとても相手はできず、忙しさを理由に断っている。

農家の夏の忙しさは子供なりに分かり、「僕も手伝う」ということになった。直売所へ出荷する野菜は夜明けとともに収穫をする。その野菜を袋詰めするのを手伝ってもらうことになった。オクラ、ピーマン、玉ネギなどを大小组み合わせて、決められた重量に袋詰めする。スーパーなどへ買い物について行っているせいか、一人前のことを言いながら楽しそうにやってくれた。翌朝は寝坊して、照れくさそうに起きてきて手伝ってくれた。

あぼ兄は 小学4年生の時から、父親に習って、牛を使って田起こしをした。大きな牛はよく訓練されていて、子どもの云うこともよく聞いてくれて、土が波のようにならぬ、裏返っていくのは快感だった。牛に曳かせる鋤（スキ）は重く、子どもにとって取り回しは大変だったが とても面白かった。最初は面白くても、一日中はきつく、それが連日になると小さな身体ではとても持たない。近所の人たちは「小さいのによく働くノォ」と褒めてくれたが、実はこの歳になればもう家族労働の一員になってやらなければならない仕組みになっていた。その反面、「あんな小さいこどもを」と身体を壊してしまう心配、批判もあったようだった。足の短いのも、指の短いのも小さい時の働き過ぎからかも！？

今思うと、子どもの頃からの「楽しい」体験が様々な発想の原点になっている。

ややもすると、苦しいことはやめておけ、お金を出せば誰かがやってくれるとなりがちな今の社会だが、あぼ兄の今まで積み重ねてきた経験から云えば、苦しいことこそ皆で力を出し合えば、結果に拘わらずきつと「やりがい」「楽しさ」になる。それが又次への挑戦につなげていける。

一つの良い例が「椀の湖手づくり文化」だ。始まりは40年前、全国に情報発信し社会現象にまでなった日本初の野外コンサート「全日本フォークジャンボリー」だ。その後の「フィールドフォーク」の活動とその延長で立ち上げた「椀の湖農業小学校」があって、今年開催した「09椀の湖フォークジャンボリー」に続いている。

自分の好きなことかもしれないが、人は高い山へ何時間もかけて登る。健康づくりかもしれないが、毎日走り続けている人もいる。あぼ兄は1982年の第10回ホノルルマラソンに参加し完走した。一緒に参加した高石ともやさんのコーチ、群馬大の山西先生に聞かれた。「こどもはなぜいつも走り回っているか？」答えは「ただ、楽しいから」だと教えられた。今は走りまわる子どもをあまり見ない気がする。

一昔前には、何かの罰に「運動場3周」というのがあった。強制されて走るのは大変なので体罰に使われていたのだ。しかし中には、いやな勉強よりは走っている方が楽しいと何周も走り続けていたこどもがあったことを思い出した。感じ方の違いはあっても、辛いことにも、苦しいときでも「楽しさ」はある。好きなことなら尚更である。

農業は自然を相手に大変な仕事だが、収穫の秋には喜びに変わる。